

緑のセンターだより



No.169

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel：0166-65-5553 Fax：0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 29 年 12 月 1 日



講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「クリスマスからお正月の寄せ植え」

とき 平成 29 年 12 月 10 日（日）◎2500 円
午後 1：00～3：00 定員 20 名
講師 フラワーマスター 山本 裕美さん



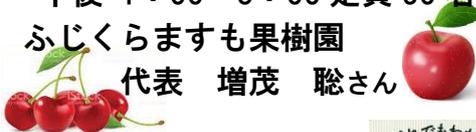
「木の実などを使ったミニリースづくり」

とき 平成 29 年 12 月 17 日（日）◎500 円
午後 1：00～3：00 定員 10 名
講師 緑のセンター相談員



「果樹の剪定と栽培管理」リンゴ、サクラコほか

とき 平成 30 年 2 月 18 日（日）
午後 1：00～3：00 定員 50 名
講師 ふじくらますも果樹園
代表 増茂 聡さん



～年末年始のお知らせ～

12月30日～1月4日まで
休館させていただきます。
新年は1月5日より開館
いたします。



「植物の病害虫と園芸薬品」

とき 平成 30 年 2 月 22 日（木）
※10：00～12：00 定員 50 名
講師 住友化学園芸 草間 祐輔さん



1年ぶりの旭川です。また、
新しい情報を皆様にお届け
したいと思います!!

「趣味の園芸」テキスト執筆等、
園芸病害虫研究の第一人者です



歩くスキー無料貸出

★スキー・シューズ・ポール3点セット★

期間：12月中旬から3月初旬予定

時間：10：00～16：00（返却 17 時迄）

◎積雪状態によるので電話で確認を
（靴のサイズが不揃いの為、ソックスを持参）



展示会のご案内

（初日は午後から、最終日は4時まで）

◎冬期間も緑のセンターは皆様のお越しを待っています！



「神楽岡公園の自然写真展」12月9日～1月21日

【休館日のご案内】

4月～10月は第2・第4月曜日が休館日（祝日の場合は翌日）
11月～3月は毎週月曜日が休館日（ " " ）

大好評!!

澤沼 雅子さんによる

「フラワーアレンジメント」

3月4日（日）

13時～15時

教材費 2,000 円

定員 20 名



昨年作品

〈園芸の基礎知識〉 植物の種子の構造と働き

～ 4 種子の発芽(1)～

■発芽のしくみ

植物の種子はまず、水をたくさん吸って膨らんでいきます。吸水した種子は休眠から覚め、種子の内部でデンプンなどの貯蔵物質の分解が始まります。貯蔵物質の一部は呼吸によって分解され、物質合成などに必要な分子をつくり出すのに利用されます。胚の分裂組織(分裂能力を持つ未分化の細胞からなる組織)では細胞分裂が始まり、新しい根とシュート(茎や葉)が伸びてきます。分解された貯蔵物質は、新しい細胞をつくるための材料としても利用されます。分裂組織で増えた細胞はいろいろな組織に分化するとともに、ひとつひとつの細胞も吸水して大きくなります。やがて、胚が種皮を破って出てきます。これが発芽ですが、最初に出てくるのは「芽」ではなく「根」のほうです。

■発芽の3条件

種子が発芽するために大切な条件が、3つあります。種子を発芽させようとするとき、種子に水を与えます。発芽の大切な1つ目の条件は、種子が吸収する水が与えられることです。多くの植物の種子は、春になり暖かくなってくると、発芽してきます。2つ目の条件は、暖かい気温であり、種子が適切な温度に保たれるということです。3つ目の条件は、空気です。なぜなら、種子は私たちと同じように呼吸をしているので、空気が必要だからです。呼吸により、生きていくエネルギーを得るためです。ですから、種子は発芽しない乾燥した状態でも、呼吸をしています。適切な温度のもとで水を吸って発芽が始まると、呼吸は激しくなります。芽や根を出し種子の皮を破って発芽するためには、多くのエネルギーが必要だからです。

■光発芽種子、暗発芽種子

多くの植物は、自然の中で自分で生きていかなければなりません。そのため、発芽の際に必要な3条件以外に、発芽したあとも成長できる光が当たっているかどうかを、自分で見きわめて発芽しているのです。このように、多くの植物のタネは、「光が当たらないと発芽せず、光が当たると発芽する」という用心深い性質を身につけています。発芽に光を必要とする身近な植物は、ツクミソウ、シソ、ミツバ、レタス、オオバコなどです。これらのタネは、発芽に光を必要とするため、光発芽種子といわれます。それに対し、光が当たると発芽が抑制されるタネは、暗発芽種子といわれます。カボチャ、ケイトウ、トマトなどです。

(参考資料:講談社「新しい高校生物の教科書」、ソフトバンククリエイティブ「植物学超入門」・「タネのふしぎ」ほか)

緑の相談 Q&A (43)

昨年さくわんの春頃はるころに花はなの咲さいているオキザリスおきざりすの鉢植はちうゑえを買かって、夏おとくは屋外いそだで育て、秋あきに株分かぶわけけして半分はんぶんを室内しつないの窓際まどぎわに置おいています。葉ははモコモコもこもこに出いていますが花はなが咲さいてきません。これはどうしてでしょうか？



オキザリスはカタバミななまの仲間ななかまで、ほとんどが非耐寒性ひたいかんせいの球根植物きゅうこんしょくぶつで、大きく分けて「春・夏咲きタイプ」と「秋・冬咲きタイプ」、「四季咲きタイプ」の三種類さんしゆゑいあります。花色はないろも黄、白、ピンク、紫色むらさきと豊富ほうふでロート状ろうたじょうの小花こばなが多数たすうさ咲き、一般いっぱんに性質せいしつは乾燥かんそうに強く、温暖わんぬんで日当たりひあたりの良い場所いよを好みます。ご相談ごさたんの品種名ひんしゆめいはわかりませんが、多分たぶんお持ちもちのオキザリスは「春・夏咲きタイプ」で、本来ほんらい今頃いまころは「休眠期きゅうみんき」だと思います。このまま育てていけば春5月頃はるごには花はなが咲くと思われます。今は土を乾かし気味かわで、4月からは乾いたらタップリと水やりしてください。また、今は肥料ひりょうを施せさないほうが良く、施す時期じきは4～5月に指定倍率ししていばいりつで薄めたリン酸分りんさんぶんの多少たし多い液体肥料えきたいひりょうを月2回程度つきに2かい施してください。

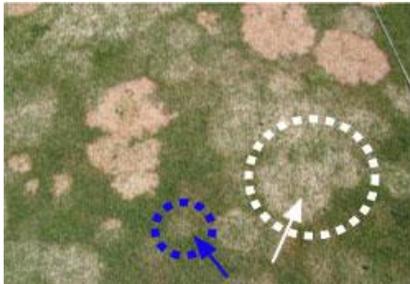
(参考資料:小学館「園芸植物大事典1」、山と溪谷社「山溪カラー名鑑 園芸植物」、NHK 出版「みんなの趣味の園芸 HP」ほか)

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー (Q&A)」を掲載しています。こちらでもご利用ください。

植物の病害

その40(芝生の雪腐病)

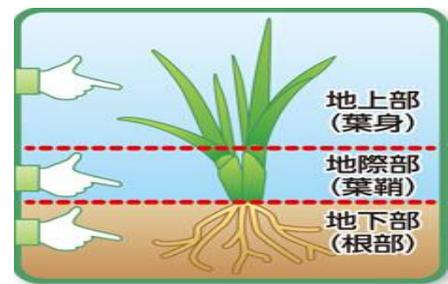
ゆきぐされこくしょくしょうりゅうきんかくびょう
雪腐黒色小粒菌核病



ゆきぐされかつしょくしょうりゅうきんかくびょう
雪腐褐色小粒菌核病



菌の主な生息部位
菌の主な生息部位



1 発生しやすい植物

芝生、秋まき小麦

2 生態

雪腐病は北海道から日本海側を中心とした積雪地帯において融雪後に現れるパッチの総称です。積雪期間が長いほど被害が大きくなります。最近では積雪がなくても発生が認められているので、その他の地域でも問題になっています。病原菌は気温 $-2^{\circ}\text{C}\sim 5^{\circ}\text{C}$ の低温と過湿の条件下で病原性を示します。積雪の低温下では拮抗菌など他の微生物の活動は停止し、蓄積炭水化物が減少して抵抗力の弱った芝に病原菌は日和見的に菌糸をのびし侵入・感染します。

3 主な病原菌・雪腐(褐色、黒色)小粒菌核病

土壤伝染性のこの病気は積雪が多く、土壌が凍結しない地域に多く発生します。小さなスポットから1m位の褐色パッチが発生し、乾くと白色(菌糸の塊り)になります。パッチの様子で軽症(I型)と(II型)に分ける場合もあります。病原菌であるティフラ菌はかすがい連結を持つ担子菌でパッチ内部の枯死葉や根部には褐色または黒色の粒(菌核)を冬の終わりに形成します。越夏した菌核は秋になるとこん棒状の桃色または白色のキノコ(子実体)が出てきます。

褐色小粒菌核病の場合は菌核から伸びる菌糸と胞子が感染源となりますが、黒色小粒菌核病では菌糸のみが感染源となり、気孔付近の細胞に侵入し、地際深く(冠部)まで感染するので回復に時間がかかります。症状の軽い小さなパッチは降雪に関係なく晩秋や初春に発生します。

4 防除法(予防対策)

薬剤防除: 雪腐病は11月から12月の積雪前に薬剤を予防的に散布するのが基本です。散布が遅れて積雪が始まった時でも、浅いうちならそのまま液剤や粒剤を処理しても有効です。

殺菌剤としては、イプロジオン・テブロコナゾール(商品名ユキスター水和剤)、DMI・オキサゾール系(商品名ミックレート水和剤)等があります。

耕種的防除: 秋期にリン酸を含む施肥は芝生に炭水化物を蓄積させるので発生を軽減させます。

治療対策: 融雪前の除雪や融雪剤処理、融雪後の目砂・施肥は芝の芽立ちを早め、症状を早く消失させる効果があります。



珍しい花「ロドキトン」を楽しむ

ゴマノハグサ科ロドキトン属 メキシコ原産 つる性多年草

英語名では、「purple bell vine(パープル ベル ヴァイン)」。

直訳すると、「ツルにぶら下がる紫色の鈴」と言ったところ？

ツル性の植物で、原産地のメキシコでは日当たりの良い森林地帯の小草として自生していて、葉の形はハート形です。ツルは、葉柄で巻きつきながら3m ほど伸びるそうです。

花は特徴的で、糸状の長い花柄に垂れ下がって下向きに咲き、ピンクの花のように見えるのはガクで、実際の花はガクに包まれる黒紫～赤紫色した管状(長さ3～4cm ほど)に見えるものです。花

が終わった後も、赤紫色に色を増したガクが残るので、いつまでも花が咲いているように見えます。

緑のセンターでは、市販の種子を5月 16 日には種し、温度と水分を管理して、芽が出るまでに3週間以上かかりました。発芽までには注意(発芽温度:15～20℃ 発芽日数 14～28 日)が必要なようです。発芽後は本葉2～3枚でポットに上げて育苗し、その後、本葉5～6枚で定植。プランターには3本、6号鉢には2本を目安として植付けし、やっと 10 月上旬に開花しました。西南暖地では4～5月には種して、花期が7～9月のようですが、残念ながら当センターでは夏のグリーンカーテンには間に合いませんでした。現在は温室内のアンドン仕立て鉢で花を楽しむ事が出来ます。……ちょっと、珍しい花です。

●日常の手入れ

- ・夏場は日当たりと風通しの良い所で育てます。
- ・寒さには弱いので、冬の旭川では屋内で最低温度5℃以上、水やりも控えて乾燥ぎみに育てます。
- ・茎葉が過乾燥にならない湿度管理するとツルが伸びて、茂るので、ときどき霧吹きで葉水を与えます。
- ・水やりは鉢土の表面が乾いたら、花や葉にかからないように鉢の縁から水を注ぎ、鉢底から流れ出るまで与えます。
- ・肥料は5月～9月に、月に2回程度、リン酸割合の多い液体肥料を 1,000 倍に薄めて与えます。



展示室の植物 (76)

アザレア (別名 西洋ツツジ)

学名: *Rhododendron simsii* ツツジ科 ツツジ属

海外では元来、ツツジ類を単に Azalea と呼ぶそうですが、日本で云うアザレアは日本や台湾、中国産の常緑性ツツジが主にベルギーに渡って改良され、その後に輸入して流通していることから、ベルgian・アザレア (Belgian Hybrid Azalea) と呼ばれる事が有ります。

花には一重と八重があり、色も白・紅・紅紫・ピンク、絞り咲きや覆輪(花びらに別の色の縁取りが入る)咲きもあって豪華です。自然環境下では春に咲きますが、早生や晩生のように品種による開花期の違いや、開花調整も可能なことから、花つきの鉢植えがほぼ1年を通して出回っています。品種改良の段階で南方系のツツジ類を交配しているため寒さに弱く、屋外で越冬させることはできませんが、緑のセンターの冬の温室を彩る欠かせない存在です。